

# 図書館だより no.257



2026(令和8)年1月29日 編集・発行 福島県立図書館  
〒960-8003 福島市森合字西養山1番地 Tel 024-535-3218 <https://www.library.fcs.ed.jp/>

## お知らせ

### 休館と各種サービスの停止

## 2月20日(金)～3月2日(月)まで休館します

図書特別整理に伴い、上記の期間、休館いたします。ご不便をおかけしますが、ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。受取館指定サービスの発送休止など、詳細はウェブサイトをご覧ください。

## 図書館 ここが新しくなりました！

1月8日から新しくなったサービスの一部をご紹介します。

### セルフ貸出機の設置

利用カードと借りたい本のバーコードを読み込むだけで、カウンターに並ばずにサッと手続きできます。公開図書室の貸出カウンター横に1台と、こどものへやに1台設置しています。

### 座席予約機の設置

閲覧席と学習席、用途に合わせて予約機で席をお取りいただけます。予約機の画面で空席を確認できるため、館内を歩き回らずに席を取れます。また、予約せずサッと座れる椅子や立って本が読める台も増えました。

### デジタルアーカイブの公開

デジタル化した当館所蔵資料（古地図や昔の写真など）を、インターネットでどなたでも閲覧することができます。

「福島県立図書館デジタルライブラリー」と検索していただくか、当館ウェブサイトの「ピックアップメニュー」→「デジタルアーカイブ」からご覧ください。



## 展示

### オランダの絵本と児童文学展

1月8日(木)から4月1日(水) 企画展示コーナー

### 西洋美術 ゴッホを中心に

1月8日(木)から2月19日(木) 時事展示コーナー

### 豊臣兄弟と戦国乱世

1月8日(木)から3月4日(水) 雑誌展示コーナー

### 天下を築いた補佐役 豊臣秀長

1月8日(木)から2月19日(木) 社会科学コーナー

## こどものへや



### 展示 冬のえほん

1月8日(木)から2月19日(木) 絵本コーナー

### ちいさなおはなしかい

日時：2月6日(金)・3月6日(金)  
いずれも11時から(15分程度)

場所：こどものへや

0歳から3歳のお子さんと保護者の方を対象とした、絵本の読み聞かせやわらべうたを楽しむおはなしかいです。

申込不要・参加無料です。

# 新着案内

各分野の担当者が選んだ、おすすめの最新資料をご紹介します。

## 人文・社会・自然

『紙の上の展覧会 国文研千年の旅』 国文学研究資料館/編 中央公論新社 2025.9 026/17259

国文学研究資料館が所蔵する古典籍や史料の中から100点を超える作品を紹介しています。『古今和歌集』や『源氏物語』、『百人一首』や『方丈記』などの有名なものから、あまり馴染みのない日記や図絵まで、紹介資料は多岐にわたります。解説とともに掲載されている図版は美しく、古典籍の新たな魅力に出会えるかもしれません。

『疫病退散たべもの記 病除けの祈りと食のまじない』 吉野りり花/著 論創社 2025.10 383.81/3125X

コロナ禍で「疫病流行の収束を祈るしかない」状況を経験した現代の私たちですが、人々は昔から、疫病除けや病氣平癒を願って、食に祈りを託してきたと著者。団子、わかめ、しょうが、こんにゃく、大根、かぼちゃ、みかん等、何を食べ、どんな病気を封じようとしてきたのでしょうか。人々がどのようにして病と向き合ってきたのかに思いを馳せる1冊です。

『鏡の国の生き物をつくる SFで踏み出す鏡像生命学の世界』 藤原慶/監修・著, 茜灯里/[ほか]著 日刊工業新聞社 2025.8 460.4/77258

鏡像生命学は分子レベルで反転した鏡写しの生命を人為的に創り出すという合成生物学の研究です。我々と外見は似ていても全く異なる鏡像人類とは何か。どんな未来が予想されるのか。最前線の研究者による解説に合わせ、SF小説で描かれる鏡像世界に引き込まれます。

## 児童・児童図書研究

『童話作家のアイウエオ 現代児童文学を創る50人の作家たち』 藤田のぼる/著 文溪堂 2025.8 J909/7

現代の児童文学の代表的な作家50人を取り上げ、五十音順で紹介している本です。代表作や作風だけでなく、著者が長年たくさんの作家と関わりを持つ中で知った作家一人ひとりの人柄についてもエピソード付きで書かれており、児童文学について詳しい方はもちろん、そうではない方でも気軽に読み進めることができます。

あまり児童文学に触れてこなかった方でも、「くじらぐも」(中川李枝子)や「ちいちゃんのかげおくり」(あまんきみこ)など、教科書で取り上げられていた作品を聞くと思い当たる作家がいるかもしれません。巻末には教科書掲載一覧も付いているので、懐かしい作品の著者や気になる作家のページから読んでみるのもおすすめです。

## 雑誌・新聞

2026年の展望や注目のトピックについて特集記事のある雑誌をご紹介します。ぜひご覧ください。

『経済』 新日本出版社 Z330.5/K7 2026.2(第365号, 2026年2月号)

特集「2026年の日本経済をどうみるか」

『事業構想』 事業構想大学院大学出版部 Z335/J2 2026.2 (通巻161号, 2026.2月号)

特集「キーパーソンに聞く 2026 日本 の 針路」

『社会教育』 日本青年館「社会教育」編集部 Z379/S1 2026.1 (第81巻1月号, 通巻955号, 2026年1月号)

特集「生涯学習論2026 ～温故知新の視点から～」

『天文ガイド』 誠文堂新光社 Z440.5/T3 2026.1(第62巻1号, 通巻第743号, 2026年1月号)

特集「2026年の天文現象」

## 地域

『裏磐梯五色沼湖沼群 日本の湖水地方』 中村 征夫/著 大月書店 2025.5 L452.9/N1/1

磐梯朝日国立公園に指定される耶麻郡北塩原村の五色沼湖沼群は、裏磐梯を代表する観光資源として訪れる人々を魅了してきました。1888年の磐梯山噴火によって形成された湖沼群が持つ青・赤・緑の不思議な色彩を、この地で特別に撮影許可を受けた水中写真家・中村征夫が捉えています。通常見ることができない水面下の写真には、同地を訪れたことのある人も新鮮な驚きを味わえるはずです。

『草野心平』 近藤洋太/著 砂子屋書房 2025.7 L911.5/K10/71

本書は「蛙の詩人」として有名ないわき市出身の詩人・草野心平の本格的な評伝です。詩人の波乱に満ちた85年の生涯が詳細に綴られており、今年度第63回歴程賞を受賞しています。

中国の嶺南大学で学んだ日々や同年代の詩人との交流、一家の生活を背負い屋台でもつ焼き屋を開業するなど、生活は苦しくともエネルギッシュにたくましく生きた様子が丁寧に描かれています。心平の詩が持つ躍動感に通ずるような、その生命力の強さに胸を打たれる作品です。

